

飛驒國國分寺年表

白川藤太郎編

田島春園先生御編飛驒國分寺年表及押上將軍遺著飛驒國分寺現塔由来記及濃飛兩國通史、大野郡史、飛驒編年史要、飛州志等を綜合して本表を編む。

年代其他種々欠落誤記無しとせず、有識の士の補加訂正されむ事を希ふ。

昭和五年卯月二十四日

國分寺門前に住む

白川藤太郎記

千二百年法灯今もかゞよへ里

金光明の尊き光

清風生

- 西曆 六七七年 天武天皇五年十一月二十四日使ヲ四方ノ国ニ遣シテ金光明經、仁王經ヲ説カシム。(当時佛舎ヲ国府ニ置ク、国分寺ノ端緒ナリ)
- 同 六九三年 持統天皇七年十月二十三日仁王經ヲ諸国ニ講セシムコト四日。
- 同 六九四年 持統天皇八年五月十一日金光明經一百部ヲ諸国ニ分置シ、毎年正月上旬之ヲ讀マシメ、其国ノ官物ヲ布施トス。
- 同 七〇二年 文武天皇大宝二年二月二十日諸国国師ヲ任ス。(国師ハ国府ノ佛舎ニ置ク)
- 同 七二五年 (四五代聖武天皇) 神龜二年七月十七日詔曰、諸国寺院ニ金光明經、或ハ最勝王經ヲ讀マシメ以テ国家ノ平安ヲ祈レト。
- 同 七二八年 神龜五年十二月二十日金光明經六十四帙ヲ諸国ニ領テ国別ニ転読シテ国家ノ平安ヲ祈ラシム。
- 同 七二九年 天平元年六月一日仁王經ヲ畿内七道ニ講セシム。
- 同 七三七年 天平九年三月三日詔曰、国毎ニ佛像三軀ヲ造リ大般若經一部ヲ写サシム。
- 同 七四〇年 天平十二年六月四日天下諸国ヲシテ法華經ヲ写シ七重塔ヲ建テシム。
- 同 七四一年 天平十三年正月十五日藤原不比等其ノ食封五千戸返納セントセシ時、内三千戸ハ諸国国分寺ニ施上シ丈六佛ヲ造ル料ニ充テシメラル。
(国分寺名の史上ニ見ユル始メナルト) 同年三月二十四日天下ニ詔シテ国毎ニ国分二寺ヲ置キ住僧尼及封賜田等ヲ定メラル。
- 同 七四四年 天平十六年七月二十一日詔曰、諸国国別ニ正税四万束ヲ割テ僧尼兩寺ニ納メ造寺ノ用タラシメヨト。
- 同 七四六年 天平十八年行基(?) 飛驒国国分寺ヲ建立。
- 同 七四七年 天平十九年十一月四日詔曰、国分二寺ノ造築怠緩ニ依リ更ニ田地ヲ加ヘ塔、金堂、像房ヲ造ラセシム。
- 同 七四九年 天平二十一年正月大僧正行基大菩薩号ヲ賜フ。同年二月二日行基菅原寺ニテ入寂、年八十二。
- 同 七四九年 天平勝宝元年閏五月二日大野郡大領飛驒国造高市麻呂飛驒国国分寺ニ知識物ヲ献ジ位階ヲ賜ハル。(続日記)

- 同 七五〇年 (四六代孝謙天皇) 天平勝宝二年五月八日仁王経ヲ京畿七道ニ使シテ講説セシム。
- 同 七五二年 天平勝宝四年閏三月八日諸国国師交替ノ官令アリ。
- 同 七五六年 天平勝宝八年五月三日聖武天皇崩御。同八年六月七道諸国ニ使ヲ遣ハシテ佛像ヲ催権セシメ明年ノ御忌日迄ニ必ず造ラシム。
- 同 七五八年 天平宝字二年七月勅シテ国別ニ金剛般若経三十卷ヲ写サシメ二十卷ヲ僧寺、十卷ヲ尼寺ニ安置ス。
- 同 七六〇年 (四七代淳仁天皇) 天平宝字四年六月七日光明皇太后崩御。
同年七月詔シテ諸国国分寺ニ阿弥陀浄土ノ画像ヲ造リ稱讚浄土経ヲ写シテ、各国分寺ニ於テ七々日ノ供養ヲ設ケシム。
- 同 七六四年 天平宝字八年十一月十一日官符日、国分寺寺物ノ犯用ヲ禁ズ。
- 同 七六六年 (四八代称徳天皇) 天平神護二年八月十八日国分ニ寺ノ寺田塔堂修理等ノ官令アリ。
- 同 七六七年 神護景雲元年十一月十二日佛像塔堂修理ノ官令アリ。
- 同 七七二年 (四九代光仁天皇) 宝龜三年六月十五日仁王会ヲ天下ノ国分金光明寺ニ設ク。
- 同 七八三年 (五〇代桓武天皇) 延暦二年四月二十八日国分寺僧死歛替定ムベキ官令アリ。
- 同 七八九年 延暦八年十二月二十三日中官不豫天下ノ諸寺ヲシテ大般経ヲ読マシム。
- 同 七九五年 延暦十四年八月国師ヲ講師トナシ毎国ニ一人ヲ置ク。
- 同 八〇五年 延暦二十四年十二月二十五日諸国講、読師ヲ簡任シ、及相替六年限トナス。
- 同 八〇六年 延暦二十五年(大同元年) 三月十七日崇道天皇ノタメニ諸国ニ金剛般若経ヲ転読セシム。
- 同 八〇八年 (五一代平城天皇) 大同三年正月十三日除疫ノタメ畿内七道大般若経ヲ転読ス。
- 同 八一〇年 (五二代嵯峨天皇) 弘仁元年空海東大寺別当ニ任セラレ。

- 同 八二二年 弘仁三年三月二十日諸国講師ヲシテ国分二寺ヲ檢校セシム。
- 同 八二四年 弘仁五年九月十一日京畿七道ノ国分寺ノ僧尼年八十才以上ノ者ニ綿ヲ施ス。
- 同 八二六年 弘仁七年五月三日京ヨリ諸国国分寺ニ至ル僧ニ路次供養伝馬ヲ充ツヘキ令アリ。
- 同 八二八年 弘仁九年九月十日詔シテ諸国金光明寺ニ於テ金剛般若波羅密多經ヲ読スルコト七日。(震害ノタメ)
- 同 八一九年 弘仁十年八月二十九日当国分寺炎上ス。(類聚国史、後風土記、日本逸史)
- 同 八二二年 弘仁十二年六月二十七日旱スルヲ以テ諸国二大雲經ヲ転読セシム。同年十二月二十六日国分僧寺僧闕ヲ補フベキ令アリ。
- 同 八二九年 (五三代淳和天皇) 天長五年二月二十八日諸国国分寺僧二十口ノ内年二十五人得度セシムベキ令アリ。
- 同 八三〇年 天長七年四月二十六日疫癘流行、天下ニ勅シテ金剛般若經ヲ転読セシムコト三日、期ヲ訖フルマデ殺生ヲ禁ズ。
- 同 八三五年 (五四代仁明天皇) 承和二年三月二十一日大僧都空海、高野山ニテ示寂 年六十二。
- 同 八三七年 承和四年八月五日真言僧毎年諸国講、講師ニ任ズベキコト。(按ニ当寺モ此ヨリ真言宗ニ転セシナルベシ)
- 同 八三九年 承和六年六月二十八日国分寺ニ於テ安居中法華經ヲ講セシム。
- 同年八月二十一日勅シテ諸国国分寺ノ最勝王經会吉祥悔過ヲ停メテ之ヲ国廳ニ修セシメ以テ恒例トス。
- 同 八四四年 承和十一年十一月十五日国分二寺僧尼度縁戒牒ヲ国庫ニ納ムベキ令アリ。
- 同 八五〇年 (五五代文徳天皇) 嘉祥三年四月十五日飛驒国講師徳嚴上奏シテ此国分寺安居修行闕如卷ヲ以テ重修ヲ願ツテ許サル。
- 同 八五二年 仁寿二年十二月二十六日諸国ニ勅シテ金剛般若經ヲ読ミ、疫氣ヲ禳ハシム。
- 同 八五三年 仁寿三年六月二十五日国分寺並定額寺僧勤六時修行セシム。
- 同 八五四年 齊衡元年当国分寺五重塔建ツト言フ。(赤田)

- 同 八五五年 齊衡二年八月二十三日試業ノ階ヲ定メ諸国講師、読師ヲ補任スル事。
- 同 八五七年 天安元年十月二十七日空海ニ大僧正ヲ賜ワル。
- 同 八六一年 (五六代清和天皇) 貞觀三年七月十一日諸国ニ詔シテ尊勝陀羅尼ヲ写シテ寺塔ノ心柱ニ藏セシム。
- 同 八六五年 貞觀七年二月十日詔シテ国安ノタメ国分寺ニ於テ金剛般若經ヲ転読セシム。
同年四月十五日満位已之ノ僧ヲ以テ諸国講師ニ擬補スベキ令アリ。
- 同 八六九年 貞觀十一年十二月二十五日明年三合ニ当ルヲ以テ国分ニ寺、昼ハ般若經ヲ転ジ夜ハ藥師、觀音号ヲ念ゼシムコト三日、豫メ災害ヲ厭フ。
- 同 八七五年 貞觀十七年十二月三日、前ト同。
- 同 八七八年 (五七代陽成天皇) 元慶二年四月二十九日百講座ヲ京畿及諸国ニ設ケ、仁王般若經ヲ説キ以テ国安ヲ禱ラシム。
- 同 八八一年 天慶五年九月十六日天台眞言兩宗兩次諸国講師読師ニ擬補スベキ事。
- 同 八八五年 (五八代光孝天皇) 仁和元年三月二十一日及五月二十三日年闕講、読師補任ノ件請求ノ令アリ。
- 同 八九三年 (五九代宇多天皇) 寛平五年正月仁王般若經ヲ国分寺及定額寺ニ転読セシム。
- 同 八九五年 寛平七年七月十一日階業ノ次第ニ依リテ諸国講師簡定スベキ事。
- 同 九〇三年 (六〇代醍醐天皇) 延喜三年六月二十日飛驒及外三国ヲ除ク外ハ国分寺僧ヲ以テ読師ニ充ツルヲ罷メ別ニ任命セシム。
- 同 九二一年 延喜二十一年十月二十七日空海ニ弘法大師ノ諡号ヲ賜フ。
- 同 九二九年 延長七年十二月二十九日明年三合災ニ当ルヲ以テ經ヲ天下ノ佛寺ニ読マシム。
- 同 九三九年 (六一代朱雀天皇) 天慶二年七月諸国名神、国分寺ニ雨ヲ祈ル。
- 同 九五三年 (六二代村上天皇) 天曆七年二月十七日畿内七道ニ勅シテ佛寺ノ修理スベキモノハ状ヲ具シテ奏上セヨト。

- 同 一〇〇四年 (六六代一條天皇) 寛弘元年九月特使国分寺塔室ヲ臨檢ス。
- 同 一〇三〇年 (六八代後一條天皇) 長元三年五月毎国丈六觀音像一軀ヲ作り觀音經百卷ヲ圖写シ国分寺ニ供養セラル、去春以来疫癘流行スレバナリ。
- 同 一一八六年 (八二代後鳥羽天皇) 文治二年五月神社佛事興行事(中略)被注其国総社並国分寺破壊及同尼寺顛? 倒国是重被經奏聞隨事体為被加修造也。
- 同 一二三八年 (八九代四條天皇) 曆仁元年十二月七日鎌倉府議ニ二国府ニ一寺ヲ置ク、国府寺ト名付ケ国司ノ菩提所トシテ寺領ヲ附セラル。
- 同 一二八一年 (九一代後宇多天皇) 弘安四年元寇ニ依リ天下ノ社寺ニ於テ国家安泰ヲ祈禱ス。
- 同 一三三四年 (九六代後醍醐天皇) 建武元年五月七日諸国一之宮及国分寺領処分ニ関スル事ヲ定メラル。
- 同 一三四〇年 (九七代後村上天皇) 興国元年(曆応三年) 当寺末寺飯山寺創建。
- 同 一三六五年 正平二十年(貞治四年) 閏九月三日及同年十一月、同二十一年三月二十八日当国分寺ニ於テ大般若經ヲ書写ス。(一説―僧淨心大般若經ヲ書写シテ納ム)
- 同 一三九八年 (二〇〇代後小松天皇) 応永五年正月十一日及六月? 日当寺ニ於テ華嚴經ヲ書写ス(一説―僧禮椿華嚴經ヲ納ム)
- 同 一四四五年 (二〇二代後花園天皇) 文安二年末寺飯山寺再興。
- 同 一五一四年 (二〇四代後柏原天皇) 永正十一年十月晦日荒城十王堂ノ鐘ヲ鑄ル、コノ鐘後ニ国分寺ノ鐘ニ改鑄サル。
- 同 一五六二年 (二〇六代正親町天皇) 永祿五年伊藤朝清金剛盤ヲ寄進ス。
- 同 一五八五年 (二〇七代後陽成天皇) 天正十三年八月金森軍松倉攻ノ兵火ニ罹リ堂宇灰燼ニ帰ス。コノ際薬師堂ハ東側ノミ罹災シタルノミニテ残りシカ。
(千光寺記及昭和二十九年解体ノ結果ニ依リ)
- 同 一五八七年 天正十五年(一説十六年) 金森長近玄海法印ヲシテ再興セシム。同年川上忠尋小鳥丸ヲ金森出雲守ニ献ス。

- 同 一五九三年 文祿二年春 朝鮮征伐戦捷ノ報アリ。高山城下之ヲ祝シテ踊歌ス。是ヨリ毎年七月七日国分寺ニ集マリ、踊歌スル例トナレリ。
- 同 一五九六年 内外陣欄間板ノ裏ニ文祿五年ノ落書アリ。
- 同 一五九八年 慶長三年正月金森法印内久原鍋女鱧口ヲ寄進ス。
- 同 一六〇〇年 慶長五年絵馬額。
- 同 一六〇二年 慶長七年金森出雲守小鳥丸ノ太刀ヲ寄進ス。
- 同 一六〇五年 慶長十年絵馬額遠藤田面之助寄進ス。
- 同 一六〇六年 慶長十一年九月十二日国分寺一代祐賢寂ス。同年十月住職玄海 飯山寺覺朝ノ木像ヲ刻成ス。
- 同 一六〇七年 慶長十二年五月玄海ノ本願ニヨリノ宮ノ拝殿建立。(玄海一ノ宮ノ別当ヲ兼ネタリ)
- 同 一六〇八年 内外陣境欄間裏板ニ慶長十三年ノ落書アリ。
- 同 一六一一年 慶長十八年八月大日如来ヲ宝塔(?)ニ安置ス。
- 同 一六一三年 (一〇八代後水尾天皇) 慶長十八年三月二十六日金森可重敷地ヲ寄進ス。
- 同 一六一五年 元和元年(二年ニ竣成) 三重塔建立(一説五重ナリシヲ天和年中ニ三重ニ改造サラレシト)
- 同 一六二五年 寛永二年六月二十四日中興第一世玄海寂ス。
- 同 一六三三年 (一〇九代明正天皇) 寛永九年二月十八日二世尊雄寂ス。
- 同 一六三三年 寛永十年九月絵馬額 中島宗右エ門寄進。
- 同 一六三五年 寛永十二年五月絵馬額 金森三八寄進。同年同月絵馬額 無名氏
- 同 一六四七年 (一一〇代後光明天皇) 正保四年九月二十四日三世勢養寂ス。

- 同 一六五二年 慶安五年正月十二日四世勢運叙ス。
- 同 一六六一年 (一一一代後西院天皇) 寛文元年七月二十四日五世勢長叙ス。
- 同 一六六三年 (一二代靈元天皇) 寛文三年五月絵馬額 無名氏。
- 同 一六六五年 寛文五年六月絵馬額 不明。
- 同 一六七二年 寛文十二(三)年五月二十一日宝塔修理。
- 同 一六七七年 延宝五年正月円鏡ヲ新調。(肥後守藤原政幸作)
- 同 一六八五年 貞享二年九月吉日不動護摩供養アリ。同年同月薬師如来開帳(向拝柱ニアリシ札ニヨル)
- 同 一六八九年 (一二三代東山天皇) 元禄二年五月二十五日六世眞宥叙ス。
- 同 一六九〇年 元禄三年正月吉日薬師如来供養アリ。(向拝柱ニアリシ札ニヨル) 元禄三年内宍当国ニ於テ造像十万體ヲ達成ス。
- 同 一六九二年 元禄五年三月不動明王安置ス。金森頼貞母庭樹院ノ寄進。
- 同 一七〇四年 宝永元年十二月青面金剛童子ヲ安置ス。
- 同 一七〇六年 宝永三年三月狩野氏筆富士山額。
- 同 一七〇八年 宝永五年五月武者額 不明。
- 同 一七一三年 (一一四代中御門天皇) 正徳三年二月十五日七世照海叙ス。同年六月絵馬額 近藤丑之助寄進。
- 同 一七一五年 正徳五年五月本尊薬師佛連座修覆。
- 同 一七一六年 正徳六年三月吉日不動護摩供養アリ。(向拝柱札ニヨル)
- 同 一七二三年 享保七年三月薬師佛及宝物江戸へ出開帳。

- 同 一七二四年 享保九年十二月郡代官長谷川忠国内小澤治達額ヲ寄進。
- 同 一七二六年 享保十一年九月聖徳太子立像、大仏師法橋一運作。
- 同 一七二八年 享保十三年七月二十八日長谷川庄五郎門前ニ寺名石標ヲ建ツ。
- 同 一七三〇年 享保十五年開帳。同年六月晦日八世眞龍叙ス。
- 同 一七三四年 享保十九年五月不動護摩供養アリ。(向拝柱札ニヨル) 同年十二月十六(二)日九世來陽叙ス。
- 同 一七三九年 元文四年三月本堂須弥壇改造カ?
- (一一五年桜町天皇) 元文四年五月山門建立(棟札アリ)(大門再建) 同年本堂内陣修理施主加々屋清三郎。
- 同 一七四五年 延享二年三月十九日末寺松樹院良傳叙ス。
- 同 一七五二年 (一一六代桃園天皇) 宝暦二年七月宝篋印塔造立。
- 同 一七五六年 宝暦六年正月二日十世賢成叙ス。
- 同 一七五九年 宝暦九年七月六日十一世瑞朝叙ス。
- 同 一七六一年 宝暦十一年三月二十四(七)日大鐘改鑄。
- 同 一七六六年 (一一七代後桜町天皇) 明和三年六地藏ヲ桐生萬人講ヨリ移置。
- 同 一七七〇年 明和七年七月二日一宮ノ神輿ヲ国分寺ニ遷シテ雨ヲ祈ル。
- 同 一七七一年 明和八年十二月十一日ヨリ十六日マデ丸屋騒動ニテ郡中村々国分寺ニ寄合ヲナス。同年桃責翁句碑建ツ。
- 同 一七七四年 (一一八代後桃園天皇) 安永三年二月服部紀豊絵馬額寄進。
- 同 一七七九年 安永八年五月郡代大原紹正布景五重塔額ヲ寄進。同年中可參翁ノ句碑建ツ。

- 同 一七八一年 (一一九代光格天皇) 天明元年四月灌頂結縁会ヲ行フ。
- 同 一七八三年 天明三年十二月竹筒経卷ヲ寄附。
- 同 一七八四年 天明四年十二月八日十二世堯英寂ス。
- 同 一七八五年 天明五年五(九)月十四日夜、庫裡ヨリ出火庫裡焼亡。同年九年? 田近修行絵馬額寄進。
- 同 一七九一年 寛政三年八月二十日大風ニテ層塔倒ル。
- 同 一七九四年 寛政六年境内ニテ曲馬興行見物群集。
- 同 一七九五年 寛政七年三月十五日ヨリ六十日間本尊及宝物江戸ニ出開帳。
- 同 一八〇〇年 寛政十二年集古十種ニ小烏丸登載。
- 同 一八〇二年 享和二年九月高山御役所ヨリ諸堂恢復寄進ノ達、発セラル。
- 同 一八〇三年 享和三年薬師堂屋根修理。(修理標札ニヨル)
- 同 一八〇五年 文化二年八月境内ニテ地芝居興行。
- 同 一八〇六年 文化三年十月八日田中大秀小烏丸ヲ模写ス。
- 同 一八〇八年 文化五年八月八日金森長近二百年忌法会ニ付霊位ヲ安置ス。
- 同 一八〇九年 文化六年二木長嘯小烏丸ヲ模写ス。
- 同 一八一二年 文化八年九月重塔願文ヲ住僧鳳山繫譚撰ス。
- 同 一八一四年 文化十一年三月押上秀彦光栄ヲ建ツ。同年六月三日金森可重二百年忌ニ付霊位安置。同年八月北川可慎之碑ヲ建ツ。
同年九月朔日層塔再建ノ奉加企初相談ヲナシ、高山御役所へ勸財ノ事願出ス。九月七日塔絵図ヲ製ス。

- 同 一八二五年 文化十二年十二月井上士郎ノ句碑ヲ建ツ。
- 同 一八二七年 文化十四年正月寺有地図ヲ調製。同年三月八日ヨリ四月八日マデ開帳。三月二十七日ヨリ境内ニテ地芝居始ム。
同年七月十(二十) 一日十三世堯快寂ス。
- 同 一八二八年 (一一〇代仁孝天皇) 文化十五年五月朔日(五月四日文政ト改元)
宝塔新始ノ利札建、十二(三) 日新始。(一説十三年八月)
- 同 一八一九年 文政二年三月塔普請始。同年四月千手院 宝塔造営ニ付佛舍利ヲ納ム。同年九月一重出来。
- 同 一八二〇年 文政三年二月二重出来。秋皆出来。同年十月十二日九輪鑄始、十一月二十二日鑄終。
- 同 一八二二年 文政四年五月塔全ク成ル。
- 同 一八二三年 文政五年三月庫裡からきたて。(一説五年正月客殿庫裡再建)
- 同 一八二三年 文政六年三月立山権現出開帳。繁昌。同年六月月輪真龍院説法アリ。
同年七月三日十四世探典逃亡。五日真龍院出立。同年十月十二神將彩色改染。
- 同 一八二四年 文政七年八月当寺空寺同様ナルヲ幸ニ相撲興行。同年秋山自雲靈堂創建。
- 同 一八二六年 文政九年末寺松樹院離末ス。
- 同 一八二九年 文政十二年七月十八日十五世頼宥寂ス。
- 同 一八四六年 (一一二代孝明天皇) 弘化三年十月重塔修理。
- 同 一八五四年 安政元年三月本尊開扉。同年七月支堂修理。
- 同 一八五五年 安政二年二月本堂修理。(コノ時屋根修復セシカ)

- 同 一八六四年 元治元年十一月大黒天安置。(コノ時文化八年ノ大日如来開帳塔婆ヲ根太ニ使用セシカ)
- 同 一八六五年 慶応元年野中南岳ノ碑建ツ。
- 同 一八六六年 慶応二年八月七日風災。九月寺有地凶ヲ製ス。
- 同 一八六八年 (一二代明治天皇) 明治元年三月神佛区別ノ官令ニ依リ鎮守天満宮、稲荷社ヲ西之一色東照宮へ、琴平社ヲ桜山八幡宮ニ移転ス。
同年九月十九日十八世堯旺高山縣知事ヨリ学校掛ヲ命ゼラル。
- 同 一八六九年 明治二年二月十五日同時ニ怪火アリシモ消留ム。同年六月八日郡中村々物代会合。(梅村一揆ノ雜費計算ヲナス)
同年十一月力士白真弓ノ碑ヲ建ツ。
- 同 一八七〇年 明治三年三月十八日十八世堯旺還俗シ東照宮ノ詞掌トナル。同年四月十五日十九世宍廣住職トナル。
同年十二月社寺境内ヲ除ク外上地ノ令布達。
- 同 一八七一年 明治四年正月社寺朱印地上地令ニテ寺領其他沒収サル。
- 同 一八七三年 明治六年十一月国分寺及照蓮寺学校創設。
- 同 一八七七年 明治十年五月富田節齋ノ墓碑立ツ。
- 同 一八七九年 明治十二(三)年六月十一日本堂屋根葺替。九月末寺千島飯山寺再興出願。同年冬関口老雲小烏丸ヲ鑑定。
- 同 一八八七年 明治二十六年八月本堂保存請願ヲ岐阜県知事ニ提出ニヨリ内務省社寺課長馬淵銳太郎派遣サル。
- 同 一八九四年 明治二十七年八月八日本堂保存金二百円下賜。
- 同 一八九六年 明治二十九年三月宝塔屋根葺替。此年大野郡長澤田乙三ニ議シ薬師觀音両像ノ写真ヲ社寺局ニ進達。
- 同 一九〇〇年 明治三十三年四月美術院ヨリ六角注多良外九名来寺。本尊鑑定。五月二十四日小松宮彰仁親王殿下御成遊サル。

- 同 一九〇二年 明治三十四年三月二十七日薬師・観音両像国宝ニ指定サレ宝物修理費下賜。(内務省告示第二七号古社寺保存法第四條ニ依リ国宝編入)
- 同 一九〇三年 明治三十六年七月美術院囑託新納忠介来寺、本尊ニ軀旧形ニ復ス。九月四日十九世空廣寂ス。
- 同 一九〇七年 明治四十年六月二十一日当寺古瓦ノ筈ニ其ノ発見ノ事跡ヲ田島春園記ス。十一月二十一日大師靈龕ヲ修造。
- 同 一九〇九年 明治四十二年四月五日本堂特別保護建造物指定サル。(内務省告示第三八号)
- 同 一九一一年 明治四十四年十月二十日高野山長代理森寛隆止来錫。
- 同 一九一三年 大正二年七月二日二十一世北原探道入寺。八月一日善縁録ヲ作ル。
- 同 一九一四年 大正三年二月境内ニ泉水ヲ起工ス。三月大正記念公孫樹園碑ヲ建ツ。
- 同 一九一五年 大正四年五月三十日田島春園国分寺年表及寺歴編撰。六月二十一日開祖千百年法要ヲ営ム。
八月九日文部省保護建造物調査委員高塚孝三郎本堂ノ図ヲ調製。
- 同 一九一七年 大正六年一月六日大門積雪ノタメ倒壊。
- 同 一九一九年 大正八年五月四日東久邇宮稔彦王殿下御成遊サル。
- 同 一九二二年 大正十一年三月二日宝塔屋根銅板葺替修理起工式。四月十三日小烏丸黒漆ノ太刀トシテ国宝ニ指定。
七月二十五日宝塔竣工式塚腰「越」の誤字「斧」太郎独力寄進ニヨル。四日間開帳。
- 同 一九二三年 大正十二年国分寺保存会成立。八月十七日工学博士関野貞文部省古社寺保存会ヨリ派遣セラレ、本堂屋根調査サル。
- 同 一九二五年 大正十四年十月二十四日本堂屋根銅葺ニ葺替。
- 同 一九二六年 大正十五年(北原哲雄入寺)護摩堂建ツ。庫裡修築。
- 同 一九二七年 昭和二年四月??日開帳。八月二十九日秩父宮雍仁親王殿下御成遊サル。

同 一九二九年 昭和四年十二月十七日旧塔跡史蹟ニ指定サル。

同 一九三〇年 昭和五年二月二十六日銀杏樹ヲ県天然記念物ニ指定方申請。

(現住康史追記)

同 一九三二年 昭和七年二月十六日押上森蔵妻やつ小烏丸模造刀奉納。

同 一九五〇年 昭和二十五年八月二十九日日本堂国重要文化財ニ指定サル。木造薬師如来国重要文化財ニ指定サル。

木造聖観音像国重要文化財ニ指定サル。小烏丸太刀国重要文化財ニ指定サル。

同年九月三日ジェーン台風ニヨリ本堂向拝屋根小破。

同 一九五一年 昭和二十七年二月一日本堂解体修理着工。

同 一九五三年 昭和二十八年三月三十一日大公孫樹天然記念物ニ指定サル。

同 一九五四年 昭和二十九年十月一日本堂解体修理落慶法要。

同 一九五五年 昭和三十年七月二十二日義宮殿下御成り。

同 一九五七年 昭和三十二年八月二日康正三年銘 神鏡(二面) 市文化財ニ指定サル。木造飛騨匠木鶴大明神像及版木市文化財ニ指定サル。

同 一九五八年 昭和三十三年九月二十七日鐘樓門市文化財ニ指定サル。

同 一九六〇年 昭和三十五年十一月三十日絵馬額(四面) 市文化財ニ指定サル。

同 一九六八年 昭和四十三年十一月十一日木造阿弥陀如来像県重要文化財ニ指定サル。

- 同 一九七〇年 昭和四十五年六月二十二日慶長三年銘鱧口市文化財ニ指定サル。永正十一年銘梵鐘市文化財ニ指定サル。
- 同 一九七二年 昭和四十六年八月十七日高松宮殿下御成り。高松宮妃殿下御成り。
- 同 一九七二年 昭和四十七年十二月二十日北原哲雄和尚中興二十二世住職ニ就任。
- 同 一九七三年 昭和四十八年六月十二日秩父宮勢津子妃殿下御成り。同年九月十二日木造不動明王像重要文化財ニ指定サル。
- 同 一九七四年 昭和四十九年十一月十三日三重塔重要文化財ニ指定サル。
- 同 一九七五年 昭和五十年六月二十三日中興二十一世贈大僧正祐淳探道大和尚寂ス。(九十才)
- 同 一九七七年 昭和五十二年五月八日表門(付棟札)市文化財ニ指定サル。同年八月一日三重塔昭和大修理着工。山門屋根銅板葺替工事。
- 同 一九七八年 昭和五十三年七月浩宮徳仁殿下御成り。同年九月二十三日三重塔昭和大修理落慶法要。
- 同 一九八二年 昭和五十七年七月二十七日礼宮文仁殿下御成り。
- 同 一九八四年 昭和五十九年三月三十日小烏丸太刀東京国立博物館ニテ研磨(磨の誤字)修理及ビ収納筥ヲ新調ス。
- 同 一九八七年 昭和六十二年八月三十一日境内火災報知器、消火栓等防災施設設置工事完成。
- 同 一九八八年 昭和六十三年十月岡本辻ケ森神社発掘調査ニヨリ国分尼寺跡方確認サル。
- 同 一九八九年 平成元年二月二十五日第二十二世贈大僧正祐全哲雄大和尚寂ス。(七十三才) 同年七月七日三重塔、大公孫樹へ落雷。大公孫樹、火災報知器ニ被害アリ。同年九月五日第二十三世住職ニ北原康央和尚就任。同年十一月三十日当寺貸車庫ヨリ不審火。
- 同 一九九〇年 平成二年九月三十日防災施設改修工事。
- 同 一九九一年 平成三年十月白真弓之墓移転修理。同年十一月四日康央和尚 晋山式執行。

以上